

1 ユニバーサルデザインとは?

より多くの人にとって使いやすい製品と環境のデザイン

道路脇でよく見かける側溝のふた(グレーチング)。このようなふたのある側溝に、物を落としてしまった経験はありませんか。

物を落として苦労してしまうようなすき間の広いタイプでは、車イスやベビーカーの車輪がはまりこんでしまい、たいへん危険です。これは細目タイプにすることで解決できます。そうするとハイヒールの女性も安心して歩けますし、杖を使う方もひっきりかかりにくくなります。これだけでも安全に利用できる人がぐっと増えるのです。

このように、特殊な設計を行ったり、特別な機構を設けなくてもより多くの人にとって使いやすくなる設計やデザインを、ユニバーサルデザインと呼びます。

ユニバーサルデザインは「改善または特殊化された設計の必要なしで、最大限可能な限り、すべての人々に利用しやすい製品と環境サービスのデザイン」と定義されています。実利用者研究機構(2003初版)：

8・9では、ユニバーサルデザインについて3つのポイントを説明しています。

1 点目は、「改善または特殊化された設計の必要なし」であるという点です。つまり、障がい者専用品ではないということであり、この点がユニバーサルデザインとバリアフリーとの大きな違いになります。

2 点目は、「最大限可能な限り、すべての人々に利用しやすい」という点です。すべての人にとって使いやすい製品は、残念ながら存在しません。そのため、現在よりも「最大限可能な限り」使いやすくなる利用者を増やすことが、ユニバーサルデザインなのです。つまり、ユニバーサルデザインは、現在多く普及している製品・サービスの「比較」の考えなのです。

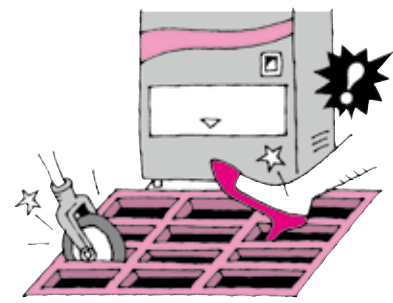
最後に3点目として、「デザイン」という言葉が挙げられます。ここでのデザインという言葉は、広い意味のデザインを指し、見た目だけのデザインだけではなく、構造なども含むトータルコーディネートが大事です。

要点BOX

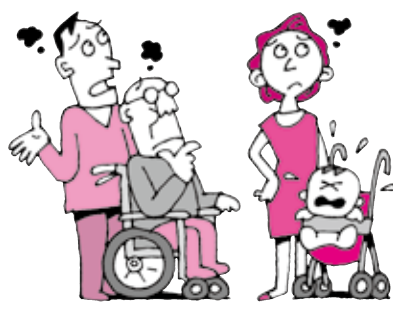
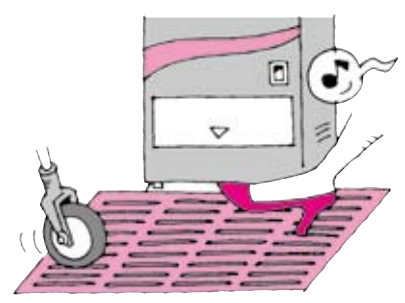
- より多くの人々にとって使いやすい設計
- 構造を含めた広い意味でのデザイン
- 特定の人だけを対象とはしない

ユニバーサルデザインとは

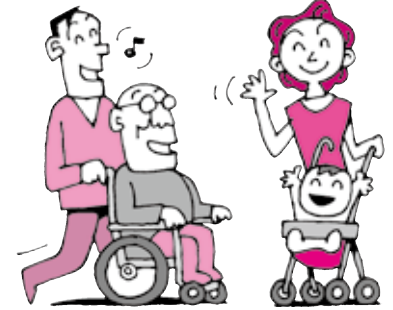
従来は



ユニバーサルデザイン



使いにくい人も…

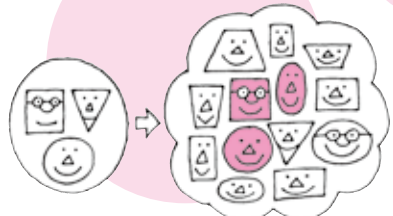


使いやすい人が増えた

ユニバーサルデザインを深く理解するための3つのポイント

1 専用品ではない

2 できる範囲ですべての人に



3 デザインは見た目だけじゃない

参照: 準2級ユニバーサルデザインコーディネーター公式テキスト

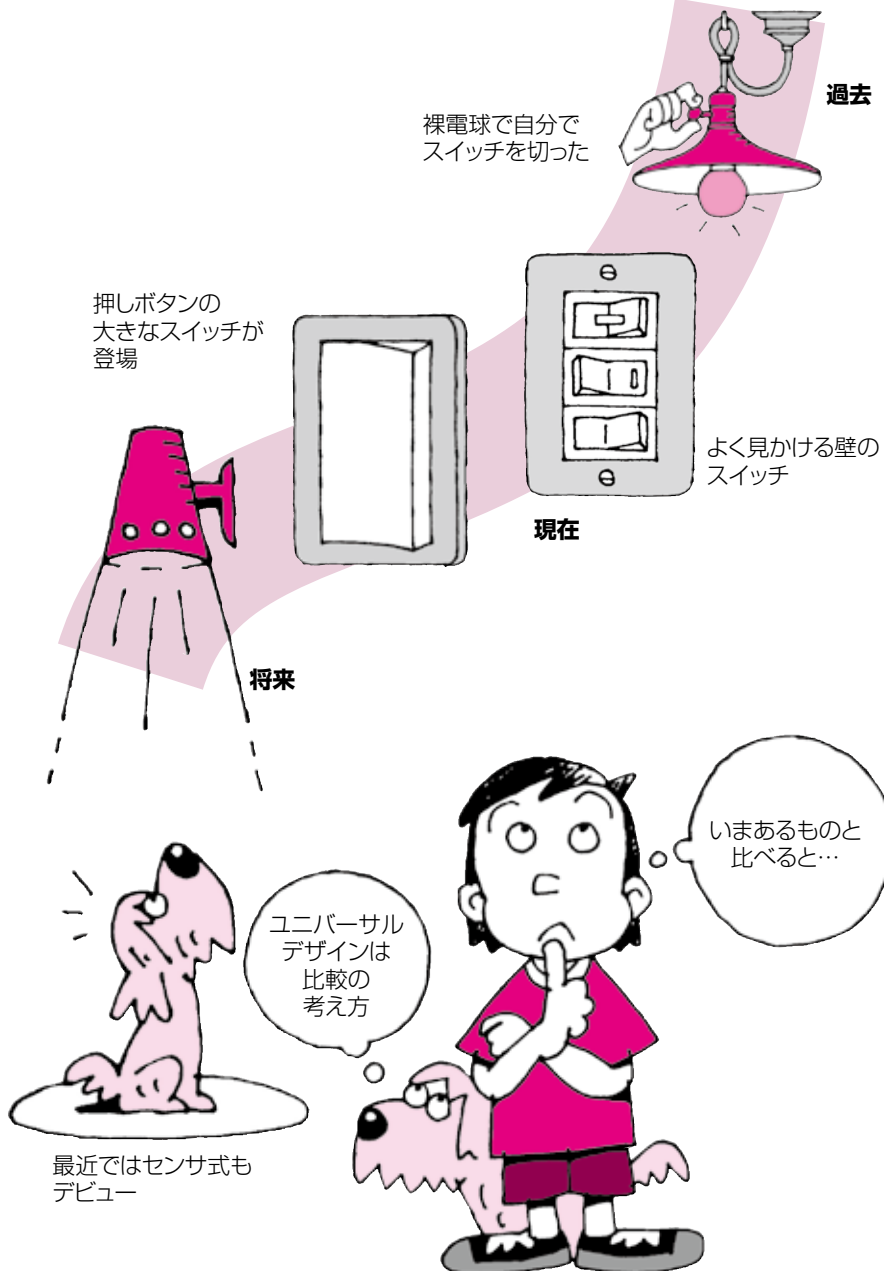
ユニバーサルデザインは「比較」の考え方

ユニバーサルデザインは
絶えず進化する

壁に取り付けられた室内照明のスイッチ。日常的に家庭や職場などで使われています。さらに最近では、大きな押しボタンのスイッチが登場してきました。これまでのスイッチに対し、押す部分が非常に大きくなっているスイッチは、小さなスイッチでは押すことが難しかった人も、押すことができるようになっています。たとえば、指先を動かすことが得意でない方も、手全体で押すことができますし、両手に荷物を持った方でも、肩でスイッチを押すことができるようになります。では、このような大きなスイッチは、完全なユニバーサルデザインであると呼べるのでしょうか。スイッチに手が届かない人や、体を全く動かすことができない人にとっては、このスイッチでも使うことができません。しかし、触れることなくON・OFFできるスイッチがあれば、その方々でも使えるようになるはず。最近では、センサ式のスイッチが市販されてきました。大きなスイッチが登場した時点では、

それまでよりもよりユニバーサルデザインに配慮していたと考えられますが、それはあくまでもその時点のこと。今後、さまざまな技術の向上があれば、ユニバーサルデザインと呼ぶことのできるレベルが、より高まることになるわけです。壁のスイッチがなかった時代、天井から吊り下げられた電球につけられた紐を引っ張ることで、照明器具のON・OFFを行っていました。照明器具に手が届かない人や、指先の複雑な動作を行うことができない人は、照明器具を点けたり消したりすることができなかったのです。その時代と比べれば、小柄な人でも子供でも操作できる壁に取り付けられたスイッチは、その当時ではよりユニバーサルデザインであったといえるのでしょうか。このように、ユニバーサルデザインといえるかどうかは、あくまでも「比較」です。普及している製品・サービスがより使いやすいと感じる人が増えてくれば、それはユニバーサルデザインといえることができます。

時代とともに変化するユニバーサルデザイン



参照: 準2級ユニバーサルデザインコーディネーター公式テキスト

要点BOX

- 今より「使いやすい」と感じる人を増やす
- 科学技術の進歩でユニバーサルデザインは変わる

3

UDの仲間たち 〜似ている考え方〜

UD以外の言葉や考え方

ユニバーサルデザインには、とても似通った意味の考え方がいくつかあり大変参考になります。どの考え方も、様々な特性の人の使いやすさを目指している点では同じですが、範囲や対象が異なります。

■デザイン・フォー・オール (Design for All)

発祥はヨーロッパで、アメリカのユニバーサルデザインと同じように使われています。すべての人がさまざまな領域で、容易に社会に参加できるようにするためのデザインの考え方です。

■共用品

日本が発祥であり、歴史があります。身体的な特性や障がいにかかわらず、より多くの人々が共に利用しやすい製品、施設、サービスのことを意味します。

■アクセシブル・デザイン (Accessible Design)

製品やサービス等の一般的な設計プロセスを高齢者や障がい者のニーズに配慮して拡張し、利用可能な人の範囲を拡大することを目指した設計思想に基づいた

デザインのこと。空間や情報へのアクセスしやすさとして、Webなどで多く用いられています。

■アダプタブル・デザイン (Adaptable Design)

将来の環境や身体の変化に対応できるように道具、住まい、ソフトウェアなどの設計するうえであらかじめ配慮しておくデザイン。学習机など、簡単に短時間で人の要求に適合させる場合に使われています。

■インクルーシブデザイン (Inclusive design)

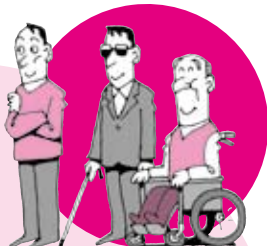
今まで利用から排除されてきた高齢者や障がい者など特別なニーズを抱えた消費者も、ユーザーに含める (include) デザインの考え方。市民団体やNPOから積極的に関係を築きデザインプロセスの始めの段階から当事者を巻き込んでいく活動もなされています。本来はユニバーサルデザインとは違った意味を持つ言葉も、最近ではユニバーサルデザインと混同されて使われることも増えてきたので、利用の際には注意が必要です。

ユニバーサルデザインと似ている考え方

デザイン・フォー・オール (Design for All)



共用品



ユニバーサルデザイン



アクセシブル・デザイン (Accessible Design)



インクルーシブデザイン (inclusive design)

インクルーシブデザインの具体的なサンプルを教えてください



アダプタブル・デザイン (Adaptable Design)

要点 BOX

- どの考え方もUDを考えるうえで参考になる
- 考え方やアプローチは違っても方向性は同じ